

南海トラフ地震、安城市はどうなる？

このたび12年ぶりに愛知県による南海トラフ地震の被害予測が見直されました。
まずは、安城市でどの程度の被害が発生し得るのかを知ることが重要です。
そして、発災時に少しでも被害を減らせるよう、日ごろから備えをしておきましょう。



安城市で南海トラフ地震が起こった場合に想定される被害※



最大震度
7



全壊・焼失棟数
約13,000棟



死者数
約500人

※理論上最大モデル発生の場合

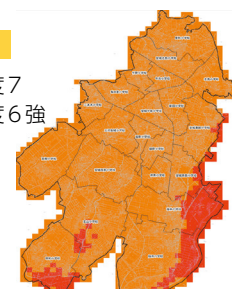
安城市被害予測・今回の見直し3つのポイント

1. 揺れの予測がより激しく、広範囲に

地盤データ更新により市内各地の「地盤の揺れやすさ」が判明。「震度7」の激しい揺れが予測される範囲が広がりました。(図1)

図1

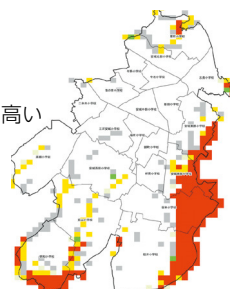
震度7
震度6強



安城市予測震度分布図

図2

危険度
極めて高い
高い



安城市予測液状化危険度分布図

2. 液状化リスクも明らかに

揺れやすい地盤が明らかになり、これまで液状化のリスクは低いとされていた地域でも、危険性は高いという結果に。(図2)

3. 被害は「揺れ」と「火災」に集中！

予測される死者のほとんどは、「建物の倒壊」と「火災」が原因。家そのものの安全対策が、命を守るための最重要課題です。

新しい被害予測に不安を感じたかもしれません。特に死因の多くが建物の倒壊と火災に集中していることは、私達への重い警鐘です。しかし、市全域が激しい揺れに見舞われる想定は前回から変わっていません。大切なのは「正しく恐れ、備える」こと。皆様一人ひとりの備えが、まち全体の防災力の向上につながります。



危機管理課
前田 健二

「今すぐできる3つの対策」と「検討したい2つの対策」

今すぐ！

- 地震の死因では「**圧死**」が非常に多い
寝室に背の高い家具を置かない、L字金具で固定
- 発災後、スーパーは休業が続く可能性
水や食料、携帯トイレ等1週間分(目安)の備蓄をする
- 「**感震ブレーカー**」で火災を防ぐ
揺れを感知すると自動的にブレーカーを落とし、電気を止める装置を取り付ける

検討しよう

- 家の耐震性を確かめ、必要であれば**耐震改修**を。家が安全なら在宅避難できる可能性もあります。
- 家の中に安全な場所を確保する、「**耐震シェルター**」の設置を検討(▶次ページ)

安城市の
支援一覧は
こちらから



～最小限の費用負担で命を守る～「耐震シェルター」の設置

耐震シェルターとは、家全体を強くするのではなく、部屋の一部に頑丈な箱や枠を置いて、地震で建物が倒れても命を守る安全な空間のことです。



耐震シェルターを設置した
横山町の犬塚さん
にお話を聞きました

6畳の寝室の中に、耐震シェルターを設置。

白い壁面と木枠で囲まれた空間(斜線部分)が耐震シェルターです。



耐震シェルターを設置する決め手となったのは？

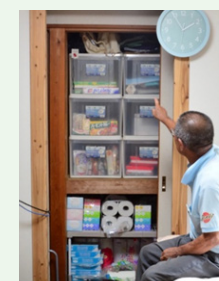
一人暮らしになったことをきっかけに、自宅の安全性を見直したところ、市の無料耐震診断で「倒壊の可能性が高い」という判定が。市の補助金を活用し、寝室に耐震シェルターを設置しました。

工事はどれくらいの期間でしたか？

2日間です。家全体の耐震改修工事より工期が短く、そのまま生活しながら工事ができるのも良い点でした。

設置後、意識に変化はありましたか？

何より安心感があります。今までは地震のたびに怖い思いをしていましたからね。防災の意識も高まり、シェルターから手が届く押し入れに水や食料等を備蓄しました。家全体の耐震改修でなくとも、自分が一番長く過ごす空間を守ることが大きな安心につながるのではないのでしょうか。



安城市木造住宅耐震シェルター等整備費補助制度 詳細は左ページQR参照

昭和56年5月31日以前に着工された2階建て以下の木造住宅で無料耐震診断の判定値が1.0未満と診断されたものが補助対象(補助金額の上限は30万円)。65歳以上であるか、各種障害者手帳所持者であること等の要件もあります。



耐震シェルター



防災ベッド

まずは無料耐震診断を してみましょう！

耐震啓発
キャラクター
「シン太」



2階建て以下の木造住宅で

- 昭和56年5月31日以前に着工されたもの
- 平成12年5月31日以前に着工され、自己チェック(下記コード参照)の結果「専門家の検証が必要」と判定されたもの

いずれかにチェックが入ったら無料耐震診断の対象です！おおよその工事費もわかります。詳細は右記QRから。



知っていますか？「半割れ地震」

南海トラフ地震は、一度で終わらないかもしれない

実は、南海トラフ地震は巨大な震源域が半分ずつ、時間差で動く「半割れ」という現象が起きることがあります。もし「半割れ」が起きると、まず西日本側(または東日本側)だけで大きな地震が発生します。安城市は、1回目の揺れが比較的小さい可能性もあります。しかし、残された「もう半分」が、数時間後から数日後、あるいは数年後に、再び巨大地震を引き起こす可能性があります。

最初の揺れが小さくても、安心せず、次の地震に備えることが大切です。「南海トラフ地震は2回来るかもしれない」。心の片隅に置いておいてください。

7月発生の令和8年熊本地震を受けて

7月、最大震度7を観測した令和8年熊本地震。右の写真は、安城市職員の両親宅(氷川町)の被災状況を写したものです。室内は家具が倒れて物が散乱、ブロック塀は倒壊しており、揺れの大きさを物語っています。

職員の家族からの話によると、本記事を作成している8月初旬時点で特に深刻なのは、地震直後から断水がずっと続いており、なかなか復旧しないことです。酷暑も深刻で、住宅の片づけ等をより困難にしているとのこと。1日も早くライフラインが復旧し、熊本の皆さんの暮らしが元に戻っていくことを願うばかりです。

そして、私達のまちで同規模の地震が起こったとき、真夏・真冬に被災したとき、被害を最小限に食いとどめられるよう、以下について確認してください。



⚠ 家屋、ブロック塀…何より重要なのは「耐震化」

図▶建築課(☎<71>2241)

市の補助制度を活用し、自宅の耐震・減災対策を検討しましょう。

制度		補助対象工事	補助金額
木造住宅耐震改修費補助	一般型	耐震診断の判定値が0.7未満のものを1.0以上(判定値が0.7以上1.0未満の場合は、0.3加算した数値以上)にする改修工事	上限155万円
	段階型	1段階目▶次のいずれかに該当するもの ①耐震診断の判定値が0.4以下のものを0.7以上1.0未満にする改修工事 ②耐震診断の判定値が1.0未満の2階建て住宅の1階の判定値を1.0以上にする改修工事 2段階目▶1段階目の補助を受けた住宅全体の判定値を1.0以上にする改修工事	1段階目 上限80万円 2段階目 上限60万円
	簡易型	耐震診断の判定値が1.0未満のものを0.1加算した数値以上にする改修工事	対象経費の2分の1 (上限30万円)
ブロック塀撤去費補助		通学路、道路、公共施設の敷地に面するコンクリートブロック・レンガ・大谷石等の組積造の塀(地盤面からの高さが1m以上のものに限る)	上限15万円

※耐震診断の申込は申請書を持参か郵送・ファクス・電子申請で建築課へ。詳細は4ページ下段QRコードから。

⚠ 「在宅避難」も見据えて万全の備えを

図▶危機管理課(☎<71>2220)

自宅に大きな被害がなければ、住み慣れた家で避難生活を送る「在宅避難」も有効な選択肢です。ライフラインが止まることを想定した在宅避難のための備えをしておきましょう。また、年々、夏の暑さは過酷さを増しています。在宅避難時における酷暑対策も必須です。



在宅避難の
ポイント

まずは基本の備え

- 飲料水(1人1日3リットル)
- 食料(カセットコンロとボンベも一緒に)
備蓄の目安▶1週間分(目安)

【最重要】命を守る「トイレ」の備えを忘れずに！

- 携帯トイレ(凝固剤と袋のセット)
備蓄の目安▶1人1日5回×7日分×家族の人数
- トイレトペーパー(多めにストック)
消臭袋、ウェットティッシュもあると安心

【夏・冬は危険！】停電に備えた「暑さ・寒さ対策」

- 暑さ対策
ポータブル電源、冷却シート、携帯型扇風機等
- 寒さ対策
カセットガストーブ、石油ストーブ(※換気・火災に注意)、使い捨てカイロ、湯たんぽ、アルミ保温シート、毛布、防寒着等